

TTC提案山行実施記録表

2011年10月04日 報告者：三村 義昭 (1/2)

山行名	御神楽岳(1,387m) [室谷コース] [新潟県] 長年懸案の2百名山「下越谷川岳」に登る			
実施月日	H23年10月01日(土)~02日(日) [1泊2日] レンタカー(ハイエース)利用			
天候/参加人員	天候:晴れのち曇り レベル:★★ 参加人員(申込:10人、実行:8人)[男2/女6人]			
パーティスタッフ	CL/計画:、SL/救護、会計:、ドライバ:、写真: 氏名削除			
参加メンバー	氏名削除			
費用	約28,200円(交通費:¥18,151+宿泊料金¥9,800+雑費¥163+TTCカンパ金¥86)			
28,200円	内訳 ①交通費:ハイエースレンタル料(25,000x2)¥50,000、ドライバ謝礼(@18,000x2+距離加算¥3,000+宿泊加算¥2,000)¥41,000、燃料代@120x(450+550+50)/5 ¥25,200、高速道路代(往路:東名¥1,450+首都高¥700+浦和-会津若松(通勤割)¥5,850+会津若松-津川¥1,650、帰路:津川-浦和(通常料金)¥8,250+首都高(休日割)¥560+東名(深夜割)¥750)¥19,210、ドライバ宿泊代¥9,800/交通費計¥145,210/一人当たり¥18,151、②宿泊費:みかぐら荘(@9,800x8)¥78,400、③雑費:会津鶴ヶ城三ノ丸駐車場¥300、通信費¥1,000/雑費合計¥1,300、費用合計(①+②+③)¥224,910			
カンパ金¥690	集金(@28,200x8)¥225,600-支出¥224,910=残金¥690(カンパ金会計に繰入)			
	行動時間	歩行時間	休憩時間	過去山行実績:なし
ガイドブック上	—	6:00*	—	△計画より林道歩行分+0:52
計画	8:10*	6:20*	1:50*	正味歩行時間 登り4:05/下り
実行(今回)	8:38 [△]	7:00 [△]	1:38 [△] (おみやげ)	2:55、*室谷登山口から往復
実行コースタイム記録				
◆10/01(土) 天候:晴れ時々曇り、夕方降雨(会津若松観光後、御神楽温泉「みかぐら荘」へ/走行距離:約460km)				
東名高速 首都高速道(中央環状経由) 東北道/磐越道				
荻野新宿=林=本厚木IC=港北PA=東京料金所=用賀料金所=浦和料金所=蓮田SA=那須高原SA=磐梯山SA=会津若松IC				
5:55 6:08 6:15 6:32/6:40 6:45 7:06 7:53 8:02/8:17 9:38/9:56 10:54/11:10 11:20				
(手打ちソバ昼食) (鶴ヶ城見学)				
=桐屋権現亭=鶴ヶ城三ノ丸駐車場=会津若松IC=津川SA=みかぐら荘(泊) 夕食18:00~ 登山口下見(15:20~16:20)				
11:35/12:15 12:30/13:43 14:07 14:45 15:10到着 就寝20:30~				
◆10/02(日) 天候:晴れ後曇り(起床4:00、御神楽岳登山、累積標高差(登り/下り)1100m、歩行距離10km、歩数:約27,000歩)				
起床~4:00/朝食4:10~(体操) 0:24 0:44+おみやげ0:10 0:28 0:05 0:15 0:30				
みかぐら荘=林道通行止め=室谷登山口=御神楽岳まで3:30の標識=同左3:00の標識=水場まで1時間の標識=御神楽岳2:40=				
4:44 5:07/5:17 5:41 6:35/6:39 7:07 7:12 7:27				
0:33 0:52 0:14 (昼食) 0:11 0:34 0:22 0:38 0:26 0:16				
水場=大森=雨乞峰(禅ヶ平ルート分岐)=御神楽岳頂上=雨乞峰=大森=水場=あと3:00の標識=渡渉点=登山口				
7:57/8:02 8:35/8:42 9:34 9:48/10:27 10:38 11:12/11:15 11:37/11:42 12:20 12:56 13:12/13:17				
0:28(残留組出迎え/体操) (温泉入浴) (おみやげ) (夕食) 事故渋滞約60分/三軒茶屋工事渋滞20分				
=林道通行止め地点=みかぐら荘=川上物産直売所=津川IC=磐梯山SA=那須高原SA=佐野SA=浦和料金所=東京料金所=				
13:45/13:57 14:20/15:12 15:17/15:30 15:42 16:32/16:45 17:50/18:03 19:15/19:48 21:13 22:28				
厚木IC=本厚木IC=前=林=荻野新宿				
22:50 23:00到着 23:15頃				
コースの概要、特記事項、反省事項等				
二百名山で、標高差800mに及ぶ日本有数の大スラブを有することから、下越の谷川岳の異名をもち、昔から神様の住む山として地元の信仰の厚い山である「御神楽山」は、いぶし銀のように地味な存在ではあるが、登山愛好者にとって一度は登ってみたい魅力ある山である。TTCでもこれまでに何度か候補に挙がったことがあったが、地理的に下越と会津国境というアクセスが悪い場所にある上、当時メインルートであった新潟県旧川上村側の禅ヶ平(榮太郎新道)コースは、急峻な岩稜を長時間かけて往復するため、相当の体力と技量の持ち主でないと厳しいコースである。尾根取り付の下流にテントを張って1日の行動時間を減らすプランも考えたが、この案もかなりバリアが高い・・・ということで、具体的な山行計画が立たずにズルズル何年も経過した。一昨年度の山行希望アンケートで、希望者が再び多かつたことから、ネット等で現地情報を集めたところ、大スラブの反対側である西側の室谷から登る登山道が整備され、一般登山者でもこの山に容易に登れるようになったとのこと。この室谷コースは古来登られていたルートであったが、その後長い間廃道になっていたのを地元で復活させたという。				
そこで、昨年10月末に登山口近くの御神楽温泉に前泊して、この室谷コースから頂上を往復するプランを立案し、約13名の応募者とともに当日を待ったが、あいにく季節外れの台風襲来によって、無念の中止となってしまった。今回は中止山行の再現版として10/1-2と1ヶ月前倒しで計画した。登山後に神奈川まで帰ることを考えると、紅葉の見ごろよりは、日の出が早い時期を優先した。前回は紅葉のベストシーズンの週末であったため、宿泊先の確保に苦労したので、今回は6月例会締め切りで参加メンバーをFIXして昨年と同じ宿を確保したまでは良かったが、この日が厚木市小学校の運動会の日で、孫の運動				

会で参加できないとの苦情を幾人かのMバからいただいてしまったが、あとの祭りであった。

(2/2)

◆10/01(土)： 実施数日前にみかぐら荘から電話があり、室谷登山口の約1km手前のアプロチ林道が土砂崩れで通行止めになっていること。このところ入山者が少なく、登山道が荒れているが登山は可能との情報をいただいた。なお、キャブ3名/追加1名の出入りがあったが、最終的には男性2名/女性6名のMバに落ち着いた。天気予報では、この週末は今秋初めての冬型気圧配置となり、日本海側は雨が降りやすい天気が続くとの見立てではあったが、気圧配置を見る限り、標高1400m未満の山に雪が降る可能性は低く、天候の崩れもたいしたことはないかと踏んで、予定通り決行することにした。

途中立ち寄り先の希望をMバに聞いた結果、戊辰戦争当時の赤瓦に葺き替えて今春リニューアルした会津鶴ヶ城を観光することにした。理由はドライブを含めた9人中、行ったことがない2名、10年以上前に行ったきり5名という結果で判断した。お城に行く前の昼食場所に、MSの提案で、つい最近の新聞か雑誌で、田部井淳子さんがおいしい手打ちそば処として紹介していた会津若松市内の桐家権現亭を選んだ。訪ねてきた訳を告げるとご主人が挨拶に現れ、福島県三春出身の田部井とは同県の山仲間として昔から親しくお付き合いしており、外国の山にも同行しているという。先日、飯豊山の山小屋で手打ちそばを打ち、田部井を初めとする同行者に自慢のMバをふるまった等のエピソードを披露していただいた。食した3種類のMバのうち、白く透き通った「飯豊権現Mバ」は、歯ごたえ香り食感とも絶品だった。鶴ヶ城では青空のもと天守閣から360度の展望を楽しんだ。磐梯山ははっきり見えたが、飯豊山の頂稜付近はあいにく雲の中であった。

みかぐら荘に到着後、CLとドライブで登山口まで下見に行き、土砂崩れで通行止めの現場を確認した。案の定、登山口までの道順は複雑で分かりにくく、明早朝薄暗い中いきなり乗りつけようとしても、登山口にたどり着けなかったかも。

女性7名は12畳の2間続きの和室、男性2名は12畳和室に案内され、早速温泉に。PH8の弱アルカリ性ナトリウム硫酸・炭酸温泉はお肌ツルツルの美肌の湯。河原の高台に建つ絶景のケーション。男性風呂からは飯豊山、女性風呂から御神楽岳が一望できる。

SEの姪がわざわざ新潟市内からみかぐら荘まで車を飛ばして叔母さんと我々のために、枝豆をどっさり差し入れていただき、早速全員でおいしく頂戴した。個室に用意されたお品がきつき12品の豪華な夕餉の膳に全員感激！風邪をひいて体調不良のKSと膝が痛くて曲がらないというSEの2名にはみかぐら荘に残って温泉を楽しんでもらうこととし、残り6名で夜明けとともに御神楽岳登山に挑戦することにして、早々に眠りに就く。明日の天気はお昼前から雨が降り出す予報。

◆10/02(日)： 4:00AM起床。宿で用意してくれたお握りを部屋で食べ、暗闇の中ハイスに乗車して4:44出発、登山口に向かう。通行止め箇所まで車を降りストレッチ体操をしている時、MSが朝起きてみたらひどい腰痛だという。ピストンといえ相当の長丁場、用心して登山をとりやめ、他の2名とともに急遽温泉湯治に変更してもらう。ようやく明るくなってきた5:17AM、CLを先頭に5名の精鋭で出発。残り1kmの林道歩きのはずだったが、正規の室谷登山口までたっぷり25分を要した。登山道はト沢右岸の樹林帯の中に続く。歩きだして10分ほどして、ルートが右の尾根の急な岩場に突きあたり、ルートを見失う。Mバをその場に待たせ、先頭のCLがそれらしき場所をあちこち探すが、明瞭な踏み跡がどうしても見つからない。万事休すか？出鼻を一発ギャツと噛まれた。ここで気持ちを落ち着かせて数10m戻ると左側の草むらに隠れていたルートを発見。ホッと胸をなで下ろす。このルートを利用する登山者は少ないらしく、いたるところ下草が生い茂って登山ルートを隠している。それ以降は樹木の所々につけられている赤い目印を見落とさないように細心の注意を払って進む。この間のロスタイムは約10分。

やがて小滝のある沢を一本渡渉して右岸に移ると左側にト沢の本流があり、しばらく左右2本の沢に挟まれた森林帯を登る。御神楽岳まで2:40の朽ち果てた標識を見る辺りから急登となり、やがて水量の多い沢を渡る。ここがどうやら水場と称する場所のようだ。ここから樹林帯の急登を30分強凌ぐと明るく展望が開け、大木に赤いペンキで大森と記した稜線の一角に辿り着き一服。先ほどまで真っ青だった空に雲が増え始めたが、朝日がまぶしい。ここまで来ると主稜線の一角である雨乞峰に続く尾根と、南側の眼下には山麓の集落と黄金色に光る水田が顔を見せ、南には雲海の上に越後の峰々が浮かんでいる。ここから、ところどころ杉の大木が目立つ尾根を登るとほどなくシクゲ通りと標識のある開けた尾根に達する。眺望を楽しみながら登ってゆくと、右側に御神楽岳本峰が顔を出す。禅が平コースの分岐となる雨乞峰に立つと、眼下に水晶尾根の大スラブの一角が顔をのぞかせる。あちこちに姿を見せるスラブとは異なり、大スラブは明るい肌色の絶壁が谷底まで続いて湧き上がるガスの中に消え、そのスケールと迫力は下越の谷川岳の異名が誇張でないことを実感する。稜線の木々の葉はようやく色着き始めたところだが、ウツの葉とナカマツの実はずでに真っ赤に色づき、いち早く秋を感じさせてくれた。

狭い御神楽岳頂上には3等三角点と達筆な字で掘られた御影石の頂上標識があるのみ。TTC5名の貸し切りでのロスタイム。OM氏の淹れてくれたユヒの味と香りを楽しむ。雲が青空を遮ってしまったといえ、時折薄日が差し、気温も12℃まで上がって重ね着も必要ない。頂上からは360度の大展望が広がる。幾重にも重なる山並みの彼方に会津駒や尾瀬隧が岳、近くには浅草岳や守門岳等の名だたる名峰が顔を見せる。北に広がる飯豊連峰は雲に阻まれ裾野部分しか姿を見せない。水晶尾根の岩壁に雲がわき大スラブの姿も隠れがち。ラッキーなことに携帯電話が繋がった。残留組は温泉をお楽しみ中とのこと。10:30AM下山開始を告げ13時頃に迎えに来よう依頼し下山開始。トップのCLの後ろにTTCの宝80歳のKMさんがピタとついて快調に歩くが、その後がどうしても遅れがち。それでも3時間少々でドライブと残留組が待つ通行止め地点に、一滴の雨にも遇わず無事到着できた。ドライブと残留組3人は我々を待つ間、山栗拾いに精を出していたようだ。

みかぐら荘に立ち寄って温泉でさっぱりしてから帰路に就く。途中東北道2箇所です事故渋滞に、首都高速で工事渋滞に遭い、約450kmの高速道を厚木に帰り着くまで8時間を要してしまった。ハンドルを握っていただいたIMドライブに多大なご苦勞をかけてしまった。感謝感謝！とにかくこれでTTCの懸案事項が一つ片付いた。それにしても80歳にして20歳以上若いMバも足元にも及ばないパワーとスピードで実歩行時間7時間を歩きとおした大先輩KMさんには脱帽の一言。山に登れなかった残留組も、Mバに負けじと栗拾いに興じ、みかぐら荘のすべすべの美肌温泉、立派な設備、豪華な食事、申し分のないサービスに感激し、もう一度泊まりたいとの声。まずまずの天候に恵まれ、それぞれが満足した山旅だった。

